

## 長野県長野高等学校 「地方・公立・全員」の挑戦

担当 白鳥美香 (SGH 事業  
推進係主任) 大池裕達 (SGH 事業推進  
係 2 学年担当)

### <掲載資料一覧>

#### 本資料

- ・表紙
- ・概念図
- ・PPT
  - ◇ 名簿および座席表は割愛。

#### 別添資料

- ・表紙
- ・フィールドワーク計画書
- ・フィールドワーク報告書
- ・フィールドワーク依頼先への添付文書 \*フィールドワーク趣旨説明
- ・フィールドワーク依頼文書 \*生徒下書き→寄添教員プリントアウト
- ・長野高校グローバルリーダー育成プログラム (表)
- ・スタンプラリー制度 (校内 FW 制) の導入\*職員への説明用
- ・研究進度報告書 \*生徒→寄添教員
- ・スタンプラリー用紙
- ・校内 FW 申込用紙 \*生徒→校内 FW 担当教員
  - ◇ 模擬「校内 FW」用各校参考資料は割愛。

平成 28 年 12 月 27 日 筑波大学文京校舎 120 教室

平成28年度第2回SGH連絡会・分科会

## 「地方・公立・全員」の挑戦

---

### I 長野高校 SGH 事業の概要

- 1 長野高校の紹介
- 2 長野高校が目指すグローバルリーダー
- 3 グローバルリーダー育成プログラム～課題研究を中心に～
  - ①「全員」を指導する基本設計～個と協働～
  - ②意欲を引き出すプログラム設計～成長段階分析～
  - ③動機づけとしての最前線作戦～地域課題～
  - ④壁を壊す校内資源活用～スタンプラリー制～
- 4 中間評価を受けて

### II ワークショップ～模擬「校内フィールドワーク」～

- 1 グループディスカッション①課題の設定
- 2 模擬「校内フィールドワーク」
- 3 グループディスカッション②見えてきたもの
- 4 リフレクション（グループ代表より）

\* アンケート記入・提出



長野県長野高等学校SGH事業推進室



〔研究開発構想名〕 **観光を核にした国際都市 NAGANO を担うグローバル・リーダーの育成**

課題研究

長野に「光」(知られざる魅力や世界に通じる課題)を「観」(発見し)その「光」を高める方法を探究・実行して 世界に発信!

「観國之光、利用賓于王」(國の光を観る、用つて王の賓たるに利し。)  
『易経』

地域に入り、本気の大人から学んで、地域の課題や知られざる魅力を発見する。グローバルな視点を持ってその解決方法あるいは魅力を発信する方法をグループで考え、「プロジェクト」として実行する。

**分野** スポーツ、 農業・食品、 生産財・林業、 地域ブランド、 自然・環境、 教育・歴史・芸術・文化、 健康長寿

○学校設定科目「グローバル経済」でグローバル化の歴史と課題を学ぶ ⇔ 「課題研究」で地元長野を知る

○グループ間の連携(各地域や各分野)により、新たな視点を生み出す(クロスエリア型戦略)。

自然×観光、 農業×地域ブランド、 文化×生産財、...

○長野県、市町村、大学、企業、NPO 等と連携。

○「総合的な学習の時間」を中心に実施。学校設定科目「英語プロジェクト I・II」で発信力、探究力を強化。

長野と世界をつなぐ課題研究

(協働で課題を解決する力の養成)

世界に羽ばたく多様な活動(国境を越える力の養成)

「長野のグローバル戦略を探る」(全員)

- ・長野—世界関係を学びながらディベートやフィールドワークの方法を習得。
- ・フィールドワークで地域を知り、課題を発見、調査・研究、発表。

1年

- ・「英語プロジェクト I」(全員)
- ・SGH 講演会(全員)
- ・小布施サマースクールとの連携
- ・米国リーダー研修(40名)

- ハーバード大学で課題研究プレゼンテーション、MIT・現地高校での交流、国連での研修 など



フィールドワーク



英語ディベート



ハーバード大学でのプレゼンテーション

「世界から見た長野のグローバル戦略」(全員)

- ・地域課題解決・魅力発信の「プロジェクト」実行。
- ・課題研究発表会で報告。

2年

- ・「英語プロジェクト II」(全員)
- ・小布施サマースクールとの連携
- ・台湾研修(全員)

- 高雄市での高校間交流で課題研究発表・ディスカッション、高雄~台北フィールドワーク など
- ・米国リーダー研修

3年

「今後の長野のグローバル戦略」(40名)

善光寺グローバルサミット 開催  
~長野の「光」を世界とともに~  
地域課題に取り組む各国の若者が明日の世界を語り合う



国宝 善光寺



国境を越えた協働で課題を解決できるグローバル・リーダーへ

平成28年度第2回SGH連絡会・分科会

ワークショップの班分けをさせていただきました。資料P2,3でFWの班を確認し、P4の座席表にしたがってご着席ください



長野県長野高等学校SGH事業推進室

平成28年度第2回SGH連絡会・分科会

## 「地方・公立・全員」の挑戦



長野県長野高等学校SGH事業推進室

## 本日の内容

- I 長野高校SGH事業の概要
  - 1 長野高校の紹介
  - 2 長野高校が目指すグローバルリーダー
  - 3 グローバルリーダー育成プログラム～課題研究を中心に～
    - ①「全員」を指導する基本設計～個と協働～
    - ②意欲を引き出すプログラム設計～成長段階分析～
    - ③動機づけとしての最前線作戦～地域課題～
    - ④壁を壊す校内資源活用～スタンプラリー制～
  - 4 中間評価を受けて

長野県長野高等学校SGH事業推進室

3

## 本日の内容

- II ワークショップ～模擬「校内フィールドワーク」～
  - 1 グループディスカッション①課題の設定
  - 2 模擬「校内フィールドワーク」
  - 3 グループディスカッション②見えてきたもの
  - 4 リフレクション(グループ代表より)

長野県長野高等学校SGH事業推進室

4

### 1 長野高校の紹介

## 長野県長野高等学校

創立 明治32年

生徒数 847名(各学年7クラス)

校訓 至誠一貫 質実剛健 和衷協同

「特色づくり」の中でのスタンス 普通の普通科

進路 現役合格率 76.8%

国公立合格率 55.6%

→ 5教科一般入試志向

長野県長野高等学校SGH事業推進室

5

### 1 長野高校の紹介

## 生徒の変質と方向性の模索

従順でまじめ

「順位」「成績」へのこだわり

「正解」を求めたがる(自分の内なる価値を信じない)。



そうは言っても入試は  
知識量と演習量

自ら考える力・  
学ぶ力が必要

長野県長野高等学校SGH事業推進室

6

# SGH指定！

## 本日の内容

- I 長野高校SGH事業の概要
  - 1 長野高校の紹介
  - 2 長野高校が目指すグローバルリーダー
  - 3 グローバルリーダー育成プログラム～課題研究を中心に～
    - ①「全員」を指導する基本設計～個と協働～
    - ②意欲を引き出すプログラム設計～成長段階分析～
    - ③動機づけとしての最前線作戦～地域課題～
    - ④壁を壊す校内資源活用～スタンプラリー制～
  - 4 中間評価を受けて

## グローバルリーダーとは？

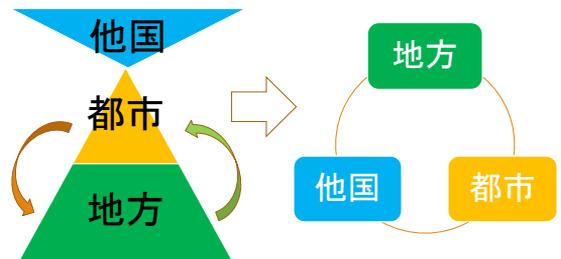
### 国際化された人

(語学力、国際経験、異文化理解 等)



地方 → 海外資源(人、もの、こと)に乏しい  
 公立 → 資金に限界  
 全員 → 教育機器・指導者の不足

## 社会の変化 地方・都市・他国



## 長野高校が育てる グローバルリーダーとは？

(国際的な場や都市だけでなく)  
地方で通用する人



主体性と協働する力(自己)  
 伸縮する視野と多角的視点(知)  
 コミュニケーション力(関係)

## 本日の内容

- I 長野高校SGH事業の概要
  - 1 長野高校の紹介
  - 2 長野高校が目指すグローバルリーダー
  - 3 グローバルリーダー育成プログラム～課題研究を中心に～
    - ①「全員」を指導する基本設計～個と協働～
    - ②意欲を引き出すプログラム設計～成長段階分析～
    - ③動機づけとしての最前線作戦～地域課題～
    - ④壁を壊す校内資源活用～スタンプラリー制～
  - 4 中間評価を受けて

①「全員」を指導する  
～生徒どうしの個と協働～

「協働する力」「多角的視点」の育成  
⇒ グループ研究

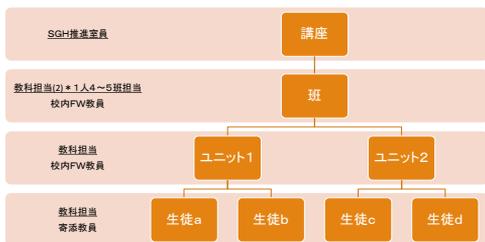
↓  
班の問い ⇒ 取り組みの不均衡

↓  
個人の問い⇒班のテーマ(共通項)

①「全員」を指導する  
～授業の指導体制1～

	学年	授業展開	教科担当	授業配置	PC台数
平成 26 年度	1年生	7クラス(分科別)同時展開	正副担任	1コマ/2週+まとめ取り	41
	2年生	2・2・3クラス同時展開	各講座 SGH 推進室員 1名 +教科担当 1名+HR 担任	2コマ/4週 ⇒5～8月・11～2月 +まとめ取り	54～64 +タブ レット 短絡レ ンタル
平成 27 年度	1年生	7クラス(分科別)同時展開	教科担当 10名+HR 担任	2コマ/2週+フィールドワーク	82 +第2 PC教室 (LL) 整備
	2年生	2・2・2クラス同時展開、 1クラス単独	各講座 SGH 推進室員 1名 +教科担当 1名	2コマ/4週 ⇒5～8月・11～2月 +まとめ取り	
平成 28 年度	1年生	2・2・2クラス同時展開、 1クラス単独	各講座 SGH 推進室員 1名 +教科担当 1名	2コマ/2週+フィールドワーク	82 +第2 PC教室 (LL) 整備
	2年生	2・2・2クラス同時展開、 1クラス単独	各講座 SGH 推進室員 1名 +教科担当 1名	2コマ/2週+フィールドワーク	
	3年生	7クラス混合同時展開 クラス別同時展開	SGH 推進室員 1名+教科 担当 1名+講師 1名 HR 担任	1コマ/2週+まとめ取り	

①全員を指導する  
～授業の指導体制2～



本日の内容

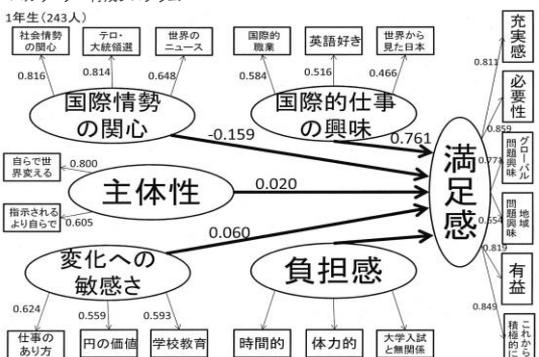
- 1 長野高校SGH事業の概要
  - 1 長野高校の紹介
  - 2 長野高校が目指すグローバルリーダー
  - 3 グローバルリーダー育成プログラム～課題研究を中心に～
    - ①「全員」を指導する基本設計～個と協働～
    - ②意欲を引き出すプログラム設計～成長段階分析～
    - ③動機づけとしての最前線作戦～地域課題～
    - ④壁を壊す校内資源活用～スタンラリー制～
  - 4 中間評価を受けて

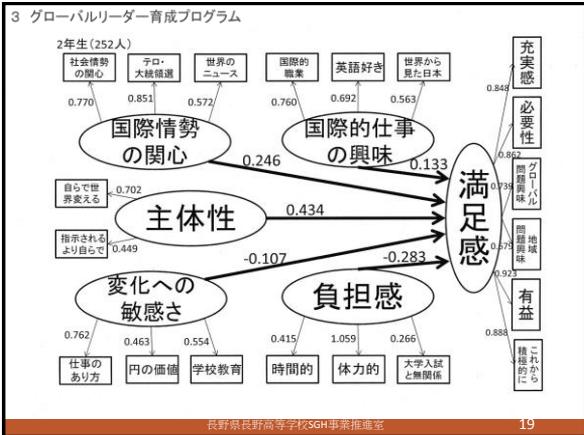
②意欲を引き出す  
～成長段階の分析～

SGH活動に充実感を感じるのに  
必要な要素は何か？

成長段階によって違うのではない  
か？

⇒ アンケート調査  
因子分析





3 グローバルリーダー育成プログラム

②意欲を引き出す  
分析結果＝国際性と主体性

SGH活動に対する生徒の充実感に強く作用する要素

1年生 前半：国際的な興味を引き出す  
1年生 後半～2年生 前半：主体性を育てる  
(班別フィールドワーク、スタッフ活動、米国リーダー研修 等)  
2年生 後半：国際的な視野を育てる  
(台湾研修旅行)

長野県長野高等学校SGH事業推進室 20

3 グローバルリーダー育成プログラム

②意欲を引き出す  
～生徒組織 SGHスタッフ～

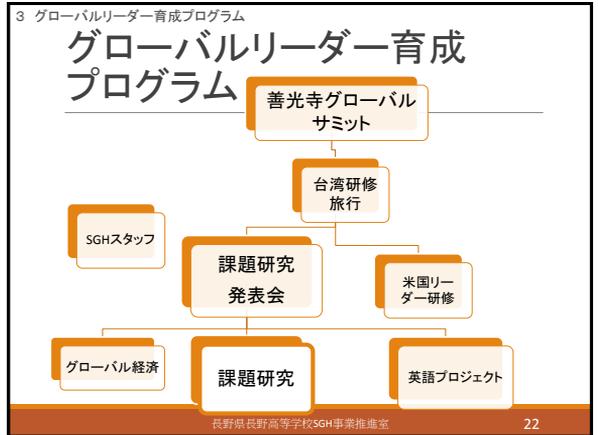
1年前半 SGH係 \* クラス委員、係の一つ。実務担当。  
後半 SGH係 + SGHスタッフ  
\*有志。SGH活動の内容や課外活動に関与

米国リーダー研修

2年 SGHスタッフ + SGH係

3年 SGH選択生

長野県長野高等学校SGH事業推進室 21



本日の内容

I 長野高校SGH事業の概要

- 1 長野高校の紹介
- 2 長野高校が目指すグローバルリーダー
- 3 グローバルリーダー育成プログラム～課題研究を中心に～
  - ①「全員」を指導する基本設計～個と協働～
  - ②意欲を引き出すプログラム設計～成長段階分析～
  - ③動機づけとしての最前線作戦～地域課題～
  - ④壁を壊した校内資源活用～スタンブライナー制～
- 4 中間評価を受けて

長野県長野高等学校SGH事業推進室 23

3 グローバルリーダー育成プログラム

③動機づけとしての最前線作戦  
～地域課題への取り組み～

テーマの出発点＝自分の興味・関心  
「自分ごと」として取り組めるもの

↓  
地域課題

<フィールドワーク>  
一次情報 → 自分独自の体験・発見・責任  
＝最後の提案を支えるもの

長野県長野高等学校SGH事業推進室 24

## 本日の内容

- I 長野高校SGH事業の概要
- 1 長野高校の紹介
  - 2 長野高校が目指すグローバルリーダー
  - 3 グローバルリーダー育成プログラム～課題研究を中心に～
    - ①「全員」を指導する基本設計～個と協働～
    - ②意欲を引き出すプログラム設計～成長段階分析～
    - ③動機づけとしての最前線作戦～地域課題～
    - ④壁を壊す校内資源活用～スタンプラリー制～
  - 4 中間評価を受けて

### 3 グローバルリーダー育成プログラム

## ④壁を壊す校内資源活用 ～スタンプラリー制～

校外へのフィールドワーク&研究水準管理にの壁

- 時間不足（1年生...8回/年の授業+まとめり）
- 予算不足（交通費は原則自己負担）
- 人手不足



多様な校内資源  
＜校内スタンプラリー制＞

寄添教員（進度管理・FW事務、3学年担任以外全教員）＋  
校内フィールドワーク（生徒の課題に自分の視点から意見、アドバイスを示す）\* 同窓会主催講演会等も。

## 本日の内容

- I 長野高校SGH事業の概要
- 1 長野高校の紹介
  - 2 長野高校が目指すグローバルリーダー
  - 3 グローバルリーダー育成プログラム～課題研究を中心に～
    - ①「全員」を指導する基本設計～個と協働～
    - ②意欲を引き出すプログラム設計～成長段階分析～
    - ③動機づけとしての最前線作戦～地域課題～
    - ④壁を壊す校内資源活用～スタンプラリー制～
  - 4 中間評価を受けて

## 中間評価を受けて

- 探究のプロセスにのったカリキュラムデザインの構築や教員集団の意思疎通が図られており、事業が順調に進捗しており、評価できる。
- 今後は、総合的な学習の時間で育んだ資質・能力を他教科でも発揮していくことが期待される。
- 限られた海外研修の機会を有効に活用しながら取り組んでいる点の評価できる。今後は卒業生のネットワークなどを活用し、より多くの企業などとも連携しながら実践機会の拡充を図ることが望まれる。

## 本日の内容

- II ワークショップ～模擬「校内フィールドワーク」～
- 1 グループディスカッション①課題の設定
  - 2 模擬「校内フィールドワーク」
  - 3 グループディスカッション②見えてきたもの
    - ・課題について
    - ・「校内FW」について
  - 4 リフレクション(グループ代表より)

### ワークショップ「模擬校内フィールドワーク」

## 模擬校内フィールドワーク (説明)

- 1 司会①
- 2 記録
- 3 発表
- 4 司会②



長野県長野高等学校SGH事業推進室

## グループディスカッション① ～課題の設定～



長野県長野高等学校SGH事業推進室

## 模擬「校内フィールドワーク」 ～15分(各班 1～2回)～



長野県長野高等学校SGH事業推進室

## グループディスカッション② ～見えてきたもの～



長野県長野高等学校SGH事業推進室

## リフレクション ～グループ代表より～



長野県長野高等学校SGH事業推進室

アンケートへのご協力をお願いします。  
アンケートは入り口前の机上をお願いします。

ご参加いただきありがとうございました。  
気をつけてお帰りください。



長野県長野高等学校SGH事業推進室

平成 28 年 12 月 27 日 筑波大学文京校舎 120 教室

平成28年度第2回SGH連絡会・分科会

# 「地方・公立・全員」の挑戦

---

別添資料



長野県長野高等学校SGH事業推進室

# FW計画書

FW先1つにつき1枚提出

	班	班長 ( )組( )番氏名( )
--	---	------------------

0. 班員	
( )組( )番氏名( )	( )組( )番氏名( )
( )組( )番氏名( )	( )組( )番氏名( )
( )組( )番氏名( )	
1. FW先 ( )	
①住所:	
②連絡先(Tel)	
③担当者肩書き ( )	④担当者氏名(漢字のフルネーム) ( )
⑤依頼書の宛名(肩書き・漢字のフルネーム) ( )	
⑥封筒の宛名(肩書き・漢字のフルネーム) ( )	
2. 交通手段	
3. 日程 *できるかぎり詳細に記入する。	
11月 28日 月 曜日	
4. 持ち物	
5. 緊急時に連絡を受ける生徒代表者	
組 番 氏名	Tel
組 番 氏名	Tel
6. 緊急時の連絡先	
学級担任	先生 Tel
寄添教員	先生 Tel
学校(SGH事業推進室) 026-234-1039または026-234-1027(教務室 小川教頭先生)	
7. 帰着報告 (班員全員 → 報告者 →SGH事業推進室)	
全員が無事に帰宅または帰校したら、報告者は①②③いずれかの方法でSGH事業推進室に連絡。 ①直接顔見せ(SGH事業推進室) ②電話(026-234-1039) ③メール sgh-naga@nagano-c.ed.jp	
報告者	組 番 氏名 Tel
8. 撮影担当者	
組 番 氏名	

# FW計画書

9. 質問項目(班員全員の質問内容を箇条書きで具体的に)

班長 → 寄添教員

→2部両面コピーして、1部をSGH室へ

→原本は班長へ

寄添教員検印

	班	( )組	( )番	氏名( )
--	---	------	------	-------

1. FW先 ( ) 対応して下さった方のお名前( )		
2. 交通 行き 手段[電車・バス・自転車・徒歩・ ( )]( )から( ) 交通費( )円 帰る 手段[電車・バス・自転車・徒歩・ ( )]( )から( ) 交通費( )円		
3. 調査の時間・場所(オフィス、工場、店舗、研究室 など)		
時間: 月 日( ) : ~ : ( )分間 場所:( )		
4. 質問・見学項目と回答の趣旨 * 質問する人は質問に集中する。何人かで質問を交代する。 自分の気づきを大切に記録しておく。		
質問・見学	回答・観察	発見
5. 何を得たか、またそれを今後の研究にどう生かすか。		
		寄添教員検印

☆班長が集める→寄添教員の先生へ提出→検印→2部コピーして1部をSGH室へ、原本は班長へ

(別添資料)

## 長野高等学校 1 学年 S G H フィールドワークの趣旨について

### 1、S G H 及び課題研究について

文部科学省は、平成 26 年度より「社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成」を目指す高校をスーパーグローバルハイスクール（S G H）として指定する事業を開始し、今年度は本校を含む全国 123 校が選定されています。

S G H の取組では、グローバルな社会課題を発見・解決する力を育むため、「一人一人の発想や興味・関心を伸ばし、自ら考え、主体的に学んで行く」教育活動が重要であり、その中心として、総合的・探究的な学習を行う「課題研究」を推進しています。

本校では、国境を越えた協働で課題を解決できる人物の育成をめざし、テーマを『観光を核にした国際都市 NAGANO を担うグローバル・リーダーの育成』としています。「観光」という語は中国の古典『易経』の「観國之光、利用賓于王」（國(くに)の光を観る、用(も)つて王の賓(ひん)たるに利(よろ)し)に由来します。「その地域に光(=優れた文物、産業、自然など)を観ること(=発見すること)ができたなら、そこで王(=社会)に貢献する人物としてふさわしい」という意味であり、この「光」の発見を活動の一つの核としようと本校では考えています。

### 2、フィールドワークについて

課題研究の具体的な活動方法は、2～6 人の班を作って対象とテーマを決め、地域でのフィールドワークを通してそこでの課題や知られざる魅力を発見し、その課題の解決方法や魅力を広める方法を考えて社会に発信していく、というものです。

研究成果は外部の方を講師に招いて発表します。1 学年では、課題の発見までを研究して冬に発表し、2 学年では、その課題の解決方法までを研究して秋に公開で発表します。

フィールドワークを必須としているのは、生徒たちが社会の中で働いている方々と接し、その活動を理解しようとする中で、社会の中で自らが生きていくことの意味や社会課題に目を向けていくことが期待でき、S G H の狙いである「社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養」が育まれて行くと考えられます。

この度ご協力いただくフィールドワークは、各班が社会課題を発見していくための情報収集が中心になります。何卒ご高配の程お願いいたします。

なお、ご不明な点やご要望がありましたら、遠慮なくお問い合わせください。

長野県長野高等学校 (校長) 大井 基成 (担当) 白鳥 美香 (SGH 事業推進係) 電話：026-234-1215 (代) 026-234-1039 (SGH 事業推進室直通) FAX：026-234-3500 E-mail：sgh-naga@nagano-c.ed.jp
--

2 枚目をコピーしてください。

依頼書は職印押印後、「SGH FWの主旨について」書類と一緒に先方へ送付してください。

28長野高号外  
平成28年 月 日

様

長野県長野高等学校長  
大井 基成

### スーパーグローバルハイスクールの学習に係るフィールドワークの訪問について(依頼)

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校は、平成26年度に文部科学省から将来のグローバル人材を育成する高校・スーパーグローバルハイスクールの指定を受け、課題研究「長野県クロス戦略の研究」の取組を行っています。この取組では、生徒たちが研究テーマごとグループで、団体や行政機関を訪問するフィールドワークを実施して研究を深めていこうとしています。

適切な名称にして  
ください。

つきましては、下記のとおり、本校の生徒が貴社(所・課)を訪問し、勉強させていただきたいと存じます。ご多用中誠に恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、受入れについて格段のご高配をお願いいたします。

なお、生徒の自主性を育てるために、訪問には教員が同行しませんので、この点につきましてもご理解くださるようお願いいたします。

SGHやフィールドワークの目的等の詳細につきましては、別添の「長野高等学校1学年SGHフィールドワークの趣旨について」をご覧くださいければ幸いに存じます。

### 記

1 期日・時間 : 平成28年 月 日( ) 時 分より 分程度

2 参加者: (○が代表者)

3 内容(お聞きしたいこと、見学したい箇所等)

( )は不要。氏名  
をお願いします。

ご不明な点やご要望等がございましたら、遠慮なく担当教諭( )までお寄せください。

作成したファイルは、ファイル名を「班番号(担当職員)」として、  
「kinshidata¥72 SGH¥H28¥06 1 学年¥FW 関係¥依頼書¥作成した依頼書はこちらへ」  
に保存してください

長野県長野高等学校  
〒380-8515 長野市上松1丁目16番12号  
電話:026-234-1215 FAX:026-234-1216  
担当教諭  
生徒代表  
E-mail (原則、職員アドレス)

( )は不要。

28長野高号外  
平成28年 月 日

様

長野県長野高等学校長  
大井 基成

スーパーグローバルハイスクールの学習に係るフィールドワークの訪問について（依頼）

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校は、平成26年度に文部科学省から将来のグローバル人材を育成する高校・スーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定を受け、課題研究「長野県クロスエリア型グローバル観光戦略の研究」の取組を行っています。この取組では、生徒たちが研究テーマごとグループをつくり、県内の企業、団体や行政機関を訪問するフィールドワークを実施して研究を深めていこうとしています。

つきましては、下記のとおり、本校の生徒が貴社（所・課）を訪問し、勉強させていただきたいと存じます。ご多用中誠に恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、受入れについて格段のご高配をお願いいたします。

なお、生徒の自主性を育てるために、訪問には教員が同行しませんので、この点につきましてもご理解くださるようお願いいたします。

SGHやフィールドワークの目的等の詳細につきましては、別添の「長野高等学校1学年SGHフィールドワークの趣旨について」をご覧くださいければ幸いに存じます。

#### 記

1 期日・時間 : 平成28年 月 日( ) 時 分より 分程度

2 参加者 : (○が代表者)

3 内容（お聞きしたいこと、見学したい箇所等）

ご不明な点やご要望等がございましたら、遠慮なく担当教諭（ ）までお寄せください。

長野県長野高等学校  
〒380-8515 長野市上松1丁目16番12号  
電話：026-234-1215 FAX：026-234-3500  
担当教諭  
生徒代表  
E-mail (原則、職員アドレス)

長野高校グローバルリーダー育成プログラム

		1年											2年										3年							
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
S G H	課題研究	ガイダンス	基礎スキル養成	フィールドワークⅠ	テーマ設定①	校内フィールドワーク *多様な情報、視点と主体性の育成						振り返り	テーマ設定②	フィールドワークⅢ(解決策の発見)				発表会			台湾研修(海外フィールドワーク)		英語論文作成	振り返り	善光寺グローバルサミット			英文報告書作成		
	内容	課題研究の概要	事前学習・実施・まとめ	読書・キーワード選択	テーマ発見・「問い(仮説)」設定	研究の方法と計画・情報収集(事前学習)	実施	情報分析(まとめ)・結論と全体の構成	準備PPT・発表原稿作成、発表練習	発表会	自己評価	「問い(解決仮説)」設定	情報収集(事前学習)	実施	情報の分析(まとめ)	中間レポート	準備PPT・発表原稿作成、発表練習	発表会	準備	実施	自己評価	企画	準備	実施						
	位置づけ	基礎				地域課題研究						地域+グローバル 課題研究						転換点	グローバル課題研究											
	世界への視野①新しい学びへの興味をもって入学してきた生徒に、世界に繋がる道を示すことで学ぶ意欲を喚起する。	主体性の育成①高校生活にも慣れ、自分の生き方や進路を考え始める生徒に、自分の興味や適性を見つめるとともに自ら行動する契機を提供することで主体的な学びへの意欲を喚起する。						主体性の育成②2年に進級し諸場面で主体的な活動が求められるようになる中、1年次に設定した課題についてその解決策を探求するより現実的で主体的な学びへと導く。						世界への視野②台湾研修旅行における交流やフィールドワークとその準備、振り返りに主体的に取り組む中で、日本・長野・自己を相対化する視点が育つよう導く。						主体性の育成③世界への視野③										
英語プロジェクト	レシテーション			プレゼンテーション			My Favorite Presentation	ディベート/リサーチ①				ディベート/リサーチ②			課題研究(プロジェクト) プレゼンテーション 英語論文の書き方 等			TAIWAN Presentation	論文作成 等											
グローバル経済	オリエンテーション 大航海時代と植民 絶対王政と重商主義 産業革命と近代資本主義			社会主義とロシア革命 ニューディールとブロック経済			戦後国際政治の動向 世界の政治・経済体制 国家と個人のあり方 基本的人権の保障			現代社会の諸課題																				
グローバルな活動	入門期 世界への視野	各種サマースクール、留学説明会、トビタテ! 等			*年間を通じて各種国際交流活動への有志参加。						米国リーダー研修	米国リーダー研修報告会	各種サマースクール、留学説明会、トビタテ! 等			*年間を通じて各種発表会、国際交流活動への有志参加。														
進路指導	講演会:グローバルな仕事				文理選択			オープンキャンパス				学部 学科学研究会	科目選択																	

# 1 学年課題研究の指導体制について

## ～長野高校スタンプラリー制度（校内FW制）の導入～

### 1. 寄添教員の役割

- 研究班1班に1人の寄添教員を割り振らせていただきます その班全員の寄添教員となります
- (1) 1ヶ月に1度個人面談（10分以内）をおこない、スタンプラリーにスタンプを押す
  - 研究進捗報告用紙を用いて、面談をおこなう（必要に応じて評価シートを用いてください）
  - 研究段階（下の表）を掌握し、ファイルに面談日時と進捗を入力する  
kinshidata¥72 SGH¥H28¥06 1 学年¥課題研究進捗入力
  - 心配な点などはSGH室へ連絡し、担任や授業担当者と情報共有する
- (2) 外部FW時の指導
  - ① 依頼書の作成と発送                      ② FW先への電話確認
  - ③ 計画書と報告書のチェック（→コピーをSGH室へ）                      ④お礼状のチェックと発送

### 2. 授業担当者の役割

- (1) 総合的な学習の時間における全体的な指導（2クラス、もしくは1クラス単位）
- (2) 外部FW時の、計画書と報告書の把握
- (3) 課題研究の評価

### 3. 校内FWを申し込まれた教員（担任以外の先生）の役割

- (1) 1回の相談は原則10分程度とし、班員全員にスタンプを押す
  - 生徒が事前に聞きたいことのメモを持ってアポを取りに来ます
  - 必要に応じて評価シートを用いて、その観点に基づいてアドバイスをする
  - 1人の先生が対応できるのは、FW（11月28日）前後にそれぞれ原則3班までと生徒には伝えてありますので、それ以上の班に申し込まれた場合には、断っていただいて構いません
- (2) 生徒がどの先生に相談したらよいか分からない場合には、先生を提案しても良い
  - 授業担当者、寄添教員、担任などからの提案も有り（恨みっこ無しで）

### 4. 今後の発展性

- スタンプラリーの中に、日程的・内容的なハードルを組み込むことができるので、様々な可能性が考えられる（来年度検討）

### 課題研究の進め方

研究段階	内容	注意点	進捗の目安
1 テーマ発見	2次情報を用いて、社会的に意味のあるテーマを発見する	ある程度抽象的でも良い	9月
2 問い（仮説）設定	テーマの中で、具体的な問い（仮説）を設定する	現実的に探究可能な問い	9月
3 研究の方法と計画	問い（仮説）を探究するために何をしたらよいか	FW先も検討	10月
4 情報収集	FWにむけて2次情報を収集し事前調査する		10月、11月
中間レポート提出	1～4までをまとめてワークシートに記入	米国研修の選考材料となる	10月26日
5 FW	なるべく1次情報を収集する		11月28日
6 情報分析	収集した情報をまとめて意味づけと解釈する	新たな発見	12月
7 結論と全体の構成	論理的に結論まで構成する	テーマ、問いを多面的に再考	12月、1月
8 発表と論文準備	パワーポイントと論文を作成する		1、2月
発表会	総合の時間内で発表する		2月14日、15日
論文提出		形式等は後日示します	2月28日

2次情報：インターネット、書籍、校内FW等で収集する情報 第三者の視点が入っている

1次情報：その課題の当事者からの情報

# 1 学年 課題研究 研究進度報告用紙

1 年 組 番 氏名

月の報告・相談 実施日 月 日 (寄添教員 先生)

- ・ 9月～2月の間、1ヶ月に1度、寄添教員と課題研究の進み具合などについて報告・相談すること (10分以内)
- ・ この用紙に1ヶ月の活動を記入して寄添教員に見てもらうこと
- ・ 前回報告以降に校内FWを行った場合には1の部分を入力すること 2と3は必ず記入すること

本来のFWの手順

(1) アポ取り (2) 計画書作成 (3) 依頼書送付 (4) FW実施 (5) 報告書作成 (6) お礼状送付  
校内FWでは (2) (3) (6) は行わず、(5) に相当する報告書を下に記入する

1. 月 日 曜日 時 分から にて 分間、 先生 (フルネーム) に校内FWを実施しました

校内FWで指摘された点	校内FWを終えて考えたこと
-------------	---------------

(複数回校内FWを行った場合には、実施回数分だけこの用紙を使用して記入すること)

2. 今後1ヶ月間で取り組む内容

3. 課題研究の進捗表 (進捗の枠に、現在までに完了した項目を○、進行中の項目を△で記入する)

進捗	研究段階	内容	注意点	進捗の目安
	1 テーマ発見	2次情報を用いて、社会的に意味のあるテーマを発見する	ある程度抽象的でも良い	9月
	2 問い (仮説) 設定	テーマの中で、具体的な問い (仮説) を設定する	現実的に探究可能な問い	9月
	3 研究の方法と計画	問い (仮説) を探究するために何をしたらよいか	FW先も検討	10月
	4 情報収集	FWにむけて2次情報を収集し事前調査する		10月、11月
	中間レポート提出	1～4までをまとめてワークシートに記入	米国研修の選考材料となる	<b>10月26日</b>
	5 FW	なるべく1次情報を収集する		<b>11月28日</b>
	6 情報分析	収集した情報をまとめて意味づけと解釈する	新たな発見	12月
	7 結論と全体の構成	論理的に結論まで構成する	テーマ、問いを多面的に再考	12月、1月
	8 発表と論文準備	パワーポイントと論文を作成する		1、2月
	発表会	総合の時間内で発表する		<b>2月14日、15日</b>
	論文提出		形式等は後日示します	<b>2月28日</b>

2次情報：インターネット、書籍、校内FW等で収集する情報 第三者の視点が入っている

1次情報：その課題の当事者からの情報

寄添教員はこの用紙を用いて報告・相談をした後、スタンプラリー用紙にスタンプを押してください (→ネットワーク入力)

この用紙は生徒へ返却 → 緑のファイルへ

# 1年課題研究スタンプラリー用紙（2月に論文と一緒に提出）

1年組 番氏名 \_\_\_\_\_

寄添教員（ \_\_\_\_\_ 先生）からのスタンプ（個人で進捗報告）

9月 日	10月 日	11月 日	12月 日	1月 日	2月 日
				パワポ資料持参	論文原稿持参

- ・1回の面談は10分以内とし、毎月1回、研究段階（下記参照）を報告して相談すること
- ・この用紙と、研究進捗報告用紙を持参すること

校内FWのスタンプ（班全員で相談）

① 月 日	② 月 日	③ 月 日	④ 月 日	⑤ 月 日	⑥ 月 日
FW前	FW後				

## スタンプラリーのルール

- ・スタンプラリーの太線枠部分は全員必須で集めること
- ・①はFW（11月28日）前、②はFW後に行うこと 校内FWの③以降は任意
- ・長野高校の先生（担任の先生方を除く）に課題研究に関する相談をおこなうと校内FWのスタンプをもらえる
- ・校内FWは班全員で相談に行くこと → 班全員がスタンプを押してもらえる
- ・総合の時間や課題研究の時間内でも、スタンプはもらえる
- ・先生方は忙しいので、話したい内容と聞きたい内容のメモを事前に渡してアポを取ってから相談に伺うこと
- ・先生方の負担の偏りを避けるため、1人の先生が校内FWの相談を受ける班は、FW前後それぞれ原則3班までとする
- ・1回の校内FWは10分程度とすること（図などを用いて簡潔に内容を説明して相談すること）
- ・校内FWを行った後、研究進捗報告用紙に指摘された点と考えたことを記入すること
- ・校内FWの間隔は1週間以上開けること（研究進捗報告用紙に考えを整理してから次の相談に行くこと）
- ・1月は発表のためのパワーポイント資料、2月は論文原稿を持参すること（事前に渡しておいた方がよい）
- ・先生によってアドバイス内容が変わることは承知しておくこと（ここに校内FWの意義がある）

## 課題研究の進め方

研究段階	内容	注意点	進度の目安
1 テーマ発見	2次情報を用いて、社会的に意味のあるテーマを発見する	ある程度抽象的でも良い	9月
2 問い（仮説）設定	テーマの中で、具体的な問い（仮説）を設定する	現実的に探究可能な問い	9月
3 研究の方法と計画	問い（仮説）を探究するために何をしたらよいか	FW先も検討	10月
4 情報収集	FWにむけて2次情報を収集し事前調査する		10月、11月
中間レポート提出	1～4までをまとめてワークシートに記入	米国研修の選考材料となる	10月26日
5 FW	なるべく1次情報を収集する		11月28日
6 情報分析	収集した情報をまとめて意味づけと解釈する	新たな発見	12月
7 結論と全体の構成	論理的に結論まで構成する	テーマ、問いを多面的に再考	12月、1月
8 発表と論文準備	パワーポイントと論文を作成する		1、2月
発表会	総合の時間内で発表する		2月14日、15日
論文提出		形式等は後日示します	2月28日

2次情報：インターネット、書籍、校内FW等で収集する情報 第三者の視点が入っている

1次情報：その課題の当事者からの情報

先生へ 校内FW 申込用紙 (アポを取る時にこの用紙を用いること)

この行は  
申し込ん  
だ時に記  
入する

1年	組	班	班長	組	番	氏名
月		日 ( )		時間		場所

班 テーマ						
個人の問い (仮説)	組	番	氏名			
	組	番	氏名			
	組	番	氏名			
	組	番	氏名			
	組	番	氏名			
質問、意見を伺いたいこと 等						